

令和3年度 あしかりこども園 自己評価



1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育

2. 保育目標

㉠ 明るく	㉡ しっかり	㉢ のびのびと生きる	㉣ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標と評価

重点的に取り組んだ目標	評価
<p>【園児の人権擁護について】</p> <p>園児とのかかわりの中で、子ども一人ひとりの人権を尊重し、教育・保育ができていないかを保育者が振り返る。反省点は改善をしていく機会となり、より良いかかわりとなって、教育・保育の質の向上につなげ、園児一人ひとりが尊重され、自己肯定感を高めていく。</p>	<p>・一人ひとりの思いや欲求に寄り添うことが大事であるが、集団活動や生活の流れの中で、すべてに対応することが難しい場合がある。「あとでね」「待っててね」を言った時には、必ずその子と向き合えるよう心掛けて、自分自身が受け入れられている、愛されているという実感を持たせるようにした。</p>

<p>【保護者への発信】</p> <p>今や、ICT やアプリの活用は必須であり、大部分を占める若い世代の保護者が、園からの情報をいかに目にし、伝わるかが課題である。保護者の立ち入りを制限している中、園児の生活の様子を伝えるためには、一斉メールや動画配信が有効であると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報、肖像権、保護者一人ひとりの考え方の違いがあり配信の際の難しさを感じるが、園での様子が垣間見られること、また、動画を我が子と一緒に見ることで、園で行っていることを動画に合わせて行う姿にほほえましさ、喜びを感じてもらえた。 ・学級閉鎖措置中には、園児とその家族の体調の変化を ICT のアンケートを使った回答や担任による動画配信(歌・手遊び・絵本の読み聞かせなど)も行い、自宅待機中にも園とのつながりを感じてもらえるようにしたことが好評であった。 ・実施できた行事の後にもアンケートを配信して、気づきや感想を聞いた。紙媒体とは違い、手軽に回答できるためか、回答率が高いように感じる。
--	---

4. 評価項目の達成及び取組状況

	項 目	取組状況	評 価
教育・保育内容について	<p>◎子どもの学び、体験を止めない、安心感のある保育を感染対策と工夫をしながら続けていく。</p> <p>◎季節の変化や自然物、虫などを通して、自然や生きものへの探求心、愛情を持つようになる。</p>	<p>○子どもの感情や発語に対し温かい言葉で応答、受容的な関わりをし、常に見守っている環境で保育を行った。</p> <p>○身近な自然物に気付けるような環境作りや関わりを大切にし、動植物への接し方を考える機会を設けた。</p>	<p>・安心感は、生きる力の基盤となる自己肯定感につながる。「どんなあなたも大切」という関わりが一人ひとりの生きる力となっていると期待している。</p> <p>・自然や生命の不思議さ、尊さに気づき、大切に思う気持ちが芽生えていった。</p>

衛生・体調管理について	◎保護者との連携をとりながら、園児の体調の変化に少しでも早く気づくことができるようにする	○登園前の検温の記入、これまで行っていた未満児クラスの保育時間中の検温に加え、以上児クラス全園児は昼の検温を行い、体調の変化を早期発見できるようにした。 ○発熱が見られた場合は、十分な療養と受診を要請した。	・自覚症状が出る前に体温の上昇を発見、早退を要請し感染の広がりを防止できたと思われる。 ・新型コロナの感染状況だけでなく、他の感染症の情報を発信することで、保護者が子どもの体調の変化に敏感になり、早めの対応を行うことができていた。 ・毎日の玩具・室内の消毒を徹底して行い、感染予防に努めた。
安全について	◎送迎時、園児を安全に受け入れ、そして、保護者へ引き渡すために、死角となる場所や目が行き届きにくい瞬間を把握し、対策を講じる。	○朝の登園時には、時間帯によって、保護者の車が込み合い、危険な状況も生じやすいため、実際に起きた「ひやり」とした事例を配信して共有することで意識を高めてもらう。 ○降園時の保護者と職員との会話や当番職員だけで対応をする際に、想定外の事が起き、園児を安全に受け渡しできなかったことがあった。	・身近に起きている事例を伝えることで、保護者の安全への意識が更に高まった。 地域の方への働きかけも行い、保護者だけでなく、園周辺を利用する地域の方々にも気を付けて頂けている。 ・毎日の「当たり前」や「大丈夫だろう」が、大きな事故やけがにつながることを、職員が考え改める機会となり安全への意識を再確認した。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な内容
異年齢児交流を通して自己肯定感を育む	異年齢児との関わりの中で、思いやりの気持ちを育み、お互いが良い刺激となる存在となるような環境、取り組みを行う。
アフターコロナ・ウィズコロナへ向けての取り組み	感染予防対策を行いながら、園児の主体的な学びや体験を計画し、保護者が園児の成長を感じられるような行事を再開していく。
職員の資質向上に努める	これまでの研修や、園内研修で自己研鑽に加え、園や保育教諭自身の教育・保育を見つめるという観点から、外部講師を招いて、意見をいただき学びの機会を設ける。

6. 園の運営について

感染の心配と背中合わせで、緊張感を持続していくのは大変ですね。しかし、園児の健やかな成長のために、そして保護者の子育て支援のために熱意をもって取り組んでいただければと思います。コロナ禍で得たものもあるはずです。今後のより良い教育保育に活かして行ってください。

令和4年6月2日

社会福祉法人 芦刈福祉会

理事 御厨 英正

7. 財務状況

令和3年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和4年5月25日

社会福祉法人 芦刈福祉会

監事 北島 信良